

## 「哲学」の概念工学とはどのようなものか？

笠木 雅史（名古屋大学）

本発表では、参加者とともに、「哲学」という語について概念工学（の第一歩）を行ってみたい。「概念工学」とは、大まかに言って、ある語の指示、意味、機能などを改変することによって、特定の目的、観点から見て、より十分なものにすることを意味している。「哲学」の概念工学という試みを通じ、哲学、哲学史研究が、「哲学」、「哲学史」といった語の内容を改変する、あるいは、新たに作り出すという創造的意義を持つと論じることが、本発表の主目的である。この試みが可能であるためには、幾つかの主張が「哲学」という語について正しいと想定する必要がある。本要旨では、まず、私が参加者とともに行いたいと考える概念工学を可能とするための想定について述べ、次に、発表とその後の議論で行う内容を簡単に記述する。

本発表の概念工学にとって必要な想定は以下の4つである。

- (1) 「哲学」とは知的ジャンル名であり、一つの知的伝統を指示する。
- (2) この場合の伝統は、特定の人物（話し手、聞き手）、著作、場所、実践、制度、出来事などから構成される歴史的存在者である。
- (3) 「哲学」の意味、指示、機能は外的環境によって決定される。
- (4) この場合の外的環境は、哲学の専門家、「哲学」という用語の導入から始まる用語の使用の歴史、その歴史の中での用語使用のパターンを含む。

(1)、(2) の点は、S. J. Evnine (2015) が、文芸ジャンルの一つである「SF」について述べたことを敷衍したものである。Evnine は、このようにジャンルを伝統として理解する見解とジャンルを抽象的な性質の集合として理解する見解と対比し、前者の優位性を論じている。一つの優位性は、前者は後者と異なり、ある作品が当該ジャンルに属するかどうかは、その作品の内在的性質（またはそれを定式化した定義）ではなく、その作品に関わる歴史的事実によって決定されることである。したがって、類似する性質を持つ2つの作品が、全く異なるジャンルに属することがあるという分類上の問題をうまく説明することができる。もう一つの優位性は、ジャンルが特定の価値、規範性を持つことを前者が説明することができる点である。まず、ジャンルは特定の受け手を持つがゆえに、ジャンル内作品が成功するため

には、その受け手の価値観と合致し、称賛されるような特徴を備えていなければならない。また、伝統としてのジャンルは、ジャンル内作品にその伝統への恭順を要求する。この伝統への恭順は、ジャンル内作品の作成とその評価が特定の規範に従わなければならないという要求を生み出す（ただし、どのような規範を受け入れ、拒否するのかという点には、話し手、受け手の側にある程度の裁量も認められる）。

(3) もまた、Evnine が論じた点であるが、彼は意味・指示を決定する外的環境として、ジャンルの始祖となる原型作品とそれへの類似性を強調する。これは外在主義の特定の立場に過ぎないため、本発表ではより広範に (4) を採用し、哲学の専門家の哲学観や、「哲学」という語の使用の歴史や使用のパターンも意味・指示を決定する外的環境に含めることとする。この (4) の導入が、「哲学」の概念工学としての本発表に最も必要な点である。なぜなら、(4) を想定することによって、外的環境を変化させることで、「哲学」が指示する伝統がどのような伝統なのか、「哲学」は何を意味するのかを改変することができるということが導かれるからである。

Evnine (2015: 16) によれば、ある作品があるジャンルに属すると論じることは、(a) その作品が特定の伝統の成員によって取り上げられ、承認され、議論される、(b) そのジャンルの先行作品との関係のもとで読解され、解釈される、(c) そのジャンルの他作品の影響元として考慮され、参照されるという申し立てを行うことである。(4) を考慮すれば、「哲学」というジャンル名を使用して、ある研究の哲学への帰属を行う言語使用も、「哲学」の意味・指示を決定、改変する一因となる。そして、実のところ、このような形で「哲学」の意味・指示を改変しようとする試みは、西洋白人男性だけでなく、より多様な背景を持った哲学者の研究を哲学の伝統に属するものとする哲学の多様化推進のための近年の試みが意図していることだと考えることができる。また、哲学を西洋だけでなく、他の多くの文化でも営まれてきた活動とみなそうとする試みも同様である。

私自身は、近年の自分の研究の多くは、こうした「哲学」についての概念工学的意義を持つ、あるいは少なくとも持たせようとする試みとして捉えている。本発表の後半では、近年の哲学、哲学史に関する自分の研究 (Jenkins & Kasaki (2015), 笠木(2018)) を取り上げ、それがどのような形で概念工学への寄与とみなすことができるのかを論じる。具体的には、自分の研究が従来属する研究伝統がどのようなものかを価値観や規範を含めてまとめた上で、その研究がどのような点でそこから逸脱もするものであるかを解説する。発表後の議論では、参加者にも自分の研究の属する研究伝統がどのようなものかを分析してもらい、そのう

えで参加者の研究が体现する哲学、哲学史研究の意義、体现したいと思う意義について議論してみたい。

#### 参考文献

Evnine, S. E. (2015) "But Is It Science Fiction?": Science Fiction and a Theory of Genre." *Midwest Studies in Philosophy* 39 (1): 1-28.

Jenkins, C. S. I. & Kasaki, M. (2015) "The Traditional Conception of the A Priori." *Synthese* 192 (9): 2725-2746.

笠木雅史.(2018) 「ケンブリッジ分析学派の興亡：「言語論的転回」はいつ起こったのか？」  
『科学哲学』 51-2 号: 1-25 (日本科学哲学会) .